

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

遊びが変わる園庭改造／足立区立中島根保育園（東京都）

子どもたちの主体性や意欲を支えるために、環境の工夫を重ねている園の実践からは、子どもたちの変容を細やかに把握しようとする保育者の情熱が伝わってきます。

今回ご紹介する実践は、園庭の改造です。

子どもたちが日中の生活時間の多くを過ごす保育園であるからこそ園全体で検討し、都会の限られた園庭の環境を改造されています。保育者の思いを込めることができる園庭になりました。



● 自分たちで遊びを構成し継続して遊べる魅力的な園庭／3～5歳児

本園では、乳児期には安心して過ごせ、遊べる環境があることが最重要と考え、保育者と愛着関係が築けるように重点をおいて取り組んでいる。そして平成26年度より「意欲創造プロジェクト」※の一つにある『幼児期に望ましい遊びができる環境づくり』のもと取り組んできた。そのアプローチの一環として、園庭環境の改造に着手することにした。

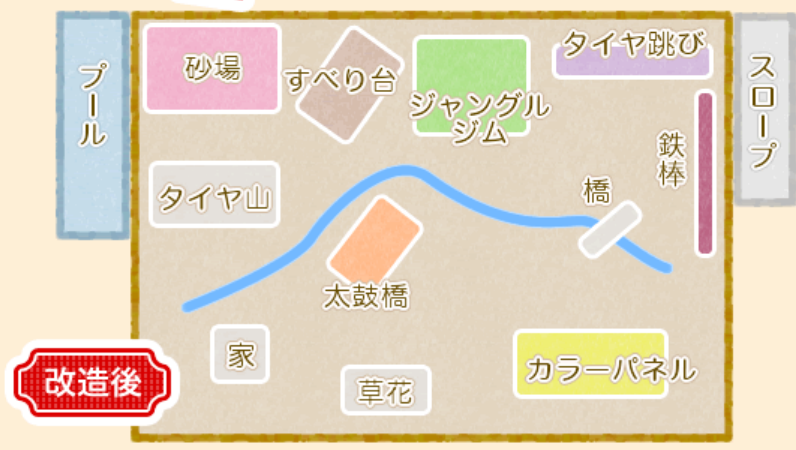
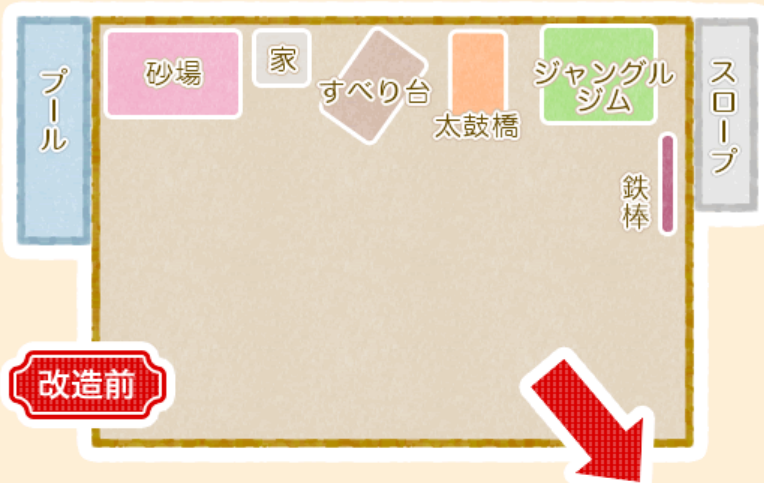
※意欲想像プロジェクト

足立区立保育園・こども園の教育施策。詳しくはこちら（足立区のホームページへ）

+ 園庭改造

● 改造のポイント

- 近年の子どもたちは、運動機能の低下、戸外で遊ぶ機会の減少といった背景から、転倒しやすい、ちょっとした運動で怪我をしやすい、といった状況が増えてきているように感じる。こうした子どもたちの遊びの中で運動機能の発達を促し、獲得できるようにする。
- 「自分たちが子どもの頃どんな遊びをしてきたのか」という話題になった。職員が子どもの頃に楽しかった遊びを子どもたちにも体験させてあげたいという思いと、子どもたちの発達、育ちを促したいという願いを合わせて園庭改造を行う。



砂場

ターザンロープとタイヤブランコでは、よじ登る、飛び降りる、揺らす、押す、友達と合図をし合って跳び乗る、跳び降りるなどを行っている。

すべり台

禁止事項を極力減らし、危険のないように見守る。反対上り、ぶら下がり、鬼ごっこの際に駆け上る、滑り下りるなどを行う。またこれらを繰り返して遊んでいる。

ジャングルジム

的を設置することで、ボールを投げ入れようとする子どもが現れる。また上り下り、ぶら下がり、潜る、這う、跨ぐといった動き、ゲームの際の駆け上り、飛び降りなどに使われている。

タイヤ跳び

タイヤの上を跳んで渡ったり跳び箱のように手をついて跳んだりしている。また座ってバランスを取ることもしている。

プール

好きな場所を選んで遊べるよう、夏季以外はプールを開放。安全面の配慮のため適所にマット、タイヤを設定。プールの段差から飛び降りたり、階段を繰り返し上り下りしたりすることを楽しむ姿、段差の伝い歩みにチャレンジする姿がある。また遊具をプール内に運び入れている子どももいる。

太鼓橋

太鼓橋の下にハンモックを設置。安全に乗るためには臀部から乗ったほうが良いなど、子どもたちが遊び方を考えている。ハンモックに揺られることで体の力を抜くこと、入れることのバランスを学んでいる。太鼓橋上部には上ったり、下りたりしている。

カラーパネル

四角く組み立てたカラーパネルを設置。安全に配慮し、周囲にマットを敷いている。パネル内を潜ったり、跨いだりする動きが多く見られる。またパネルの上に乗ったり、パネルの上から跳び降りたりしている。さらに穴の上にマットを敷き、落ちないようにバランスを保っている。

スロープ

危険のないように適所にマットを敷いている。コンビカーや三輪車で下り、またそれらを持ってスロープを上るなど、繰り返して楽しむ姿が多くある。さらに壁にぶつからないようにスピードを調節している。スロープ脇の段差からは跳び降りたりよじ登ったりし、段差のわずかな幅を伝い歩きして遊ぶ姿もある。

鉄棒

鉄棒に縄ブランコを設置したことで、自分の体の動きで揺らすこと、止めることをしている。自分の背丈にあった高さを選ぶこともしている。また前回りや逆上がりを行う姿もある。

✦ 水遊び

● 5歳児の様子

5歳児数名が園庭を掘り始める。園庭に数個の穴があいたところでAちゃんが、「こっちの穴とあっちの穴をつなげようよ」と言う。互いに「そっちに向けて掘って!」「大きいシャベルない?」などと声を掛け合って進めている。

分担して掘り進めていくうちに園庭に溝ができると、Aちゃんが「水を入れてみよう!」と水を流し入れる。水を流し入れると、水はAちゃんが流し入れた方とは反対側に流れていく。「ああ、水って高いところから低いところへ流れていくのか」と言う。

また、水を入れると「川みたい」「もっと長い川にしたいな」と口々に言い続ける。

その後も、「明日続きをしよう」「もっと長い川を作ろう!」と、遊びが継続する。

溝はどんどん長くなり、毎日のように水が流し入れられるようになる。水の性質に気が付く一方で、砂や土と水の関係にも気が付き始める。

その時々興味や関わり方により、同じ場でも、使い方や使っているものが変化している。



ホースで色々な水の出し方を楽しむ



水を溜める



掛けてみよう



雨も水だよ

● 3歳児の様子

洗濯ごっこを楽しむ。人形の服や、ままごとに使う布を水で洗い、「お水冷たいね」「気持ちがいいね」と言う。「ゴシゴシ洗うんだよ」と自分なりの言葉で表現する。「洗う・干す」が楽しめる環境を確保する。

全身泥だらけになって遊んでいる。泥んこになることが「気持ちいいよ」と言う。自ら「濡れてみる」「泥んこになってみる」子どもたちが多い。

体中で水の感触を味わい、「冷たい」など温度に気付き始めている。思い思いに水に触れてみる、自分なりの感触を味わっている姿が見られる。



● 読み取り

園庭改造を行って以降、子どもたちの遊びに変化が現れてきて、その変化を職員が感じ取って援助をして変化を積み重ねることによって保育園全体の遊びが活性化してきた。子どもたちが主体的に遊びを展開する中で、体力や運動機能が向上していく過程を園全体で実感している。また、自然な異年齢交流が見られるようになっている。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」